

事業概要シート

施策 0104 子育てと仕事の両立

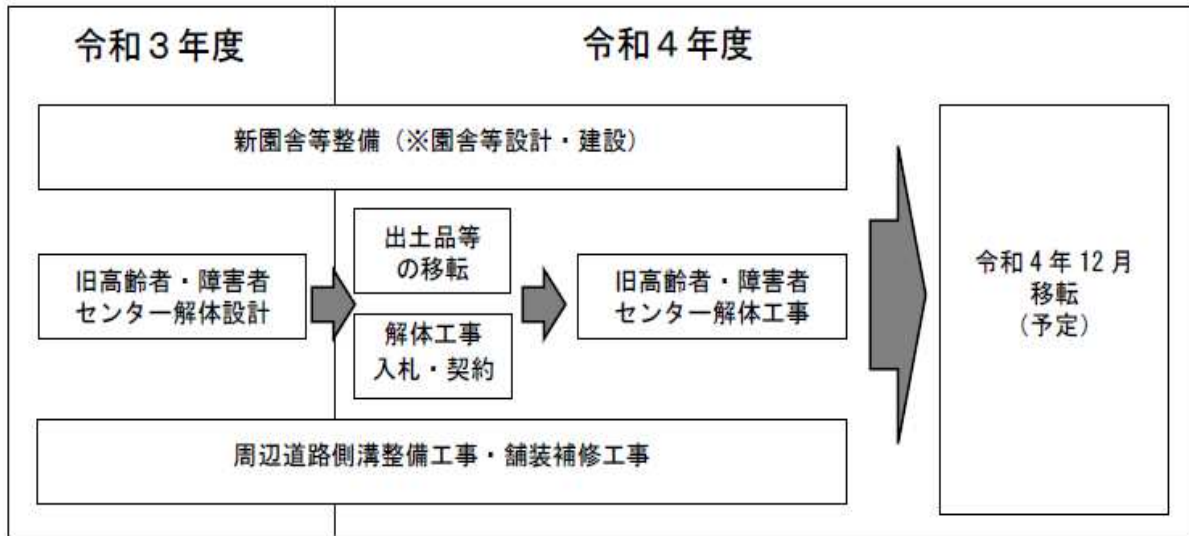
《》の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計
 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く
 ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く

事業名	三城保育所園舎整備事業	現状維持	予算額	11,616 千円
事業期間	令和3年度 ~			《 0 》千円
根拠法令 要綱等		財源内訳	国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	千円
			一般財源	11,616 千円

【事業の目的・概要・対象】

第2期おおむら子ども・子育て支援プラン（令和2年3月策定）において、「将来的には市立園の施設を放虎原こども園の1か所とするが、三城保育所については、高い保育ニーズの状況が続いているため、市全体で安定的な入所環境が整うまでの間は運営を継続する」としている。
 これを踏まえ、令和2年度耐震診断を実施したところ、震度6強から震度7の大地震の振動及び衝撃に対して危険性が高いという判定を受けたことから、様々な対応策について検討を行った結果、旧高齢者・障がい者センター駐車場部分に新園舎等を整備し移転することとした。
 また、当該移転に際しては、現在第2期おおむら子ども・子育て支援プランで想定していた市全体の保育施設における確保の量（定員総数）を超えて、民間施設での定員の確保が進んでいることから、現在90名の定員を令和5年度に50名に変更する。

※三城保育所園舎移転に係る事業の全体像（他事業を含む）



【背景】

三城保育所園舎は旧耐震基準に適合した建物として、耐震診断の必要があったが、平成31年度までの「おおむら子ども・子育て支援プラン（平成27年度～平成31年度）」においては、幼稚園との再編・統合によりこども園化を目指すこととし、こども園化に当たって園舎は使用しなくなる予定であったことから、耐震診断を実施していなかった。その方針が「第2期おおむら子ども・子育て支援プラン」において変更されたことから、今後も安定した運営を行うことを目的として令和2年度に耐震診断を実施した。

担当課	こども未来部こども政策課	課長	赤瀬 雅昭
担当者	日高 友美	問合せ先	0957-54-9100

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R2 (実績)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (計画)
①	計画値						
②	計画値						

【成果指標】

指標名		単位	R2 (実績)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (計画)
①	市立保育所整備数	か所	0	0	1	-	-
②	計画値						

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	合計
事業費	0	11,616	34,848	34,848	34,848	34,840	151,000
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	0	11,616	34,848	34,848	34,848	34,840	151,000
人件費	7,272	7,272	0	0	0	0	14,544
職員(人)	1.00人	1.00人					2.00人
時間外勤務(h)							0h
会計年度任用職員(人)							0.00人
フルコスト	7,272	18,888	34,848	34,848	34,848	34,840	165,544

妥当性 (市の関与)	本市が運営する保育所であり、本市が策定したプランにおける「当面の間、運営を継続する」という方針に基づいて実施するものである。
有効性 (施策貢献度)	本市における保育ニーズは未だ高いため、当該保育所の運営を継続することの有効性は高い。また、プランにおける確保の量の数値と現実との差を現段階で調整できることも有用である。
効率性 (コスト)	既存園舎の耐震が不足しているという判定を受け、当初想定していた、保育を継続しながらの改修工事が困難であるということが判明したため、様々な対応策についてコストも含めて検討を行い決定しており、効率性は高い。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり